

映像分野において培ってきた技術を医療現場へ

株式会社朋栄は、確かな技術とお客様からの要望への対応力で世界の放送市場から評価を頂いている映像機器メーカーです。

術野カメラ映像信号表示装置 マルチビューワー MV-1620HSA

ディスプレイにカメラ映像をはじめ必要な情報を統合表示



画面レイアウトイメージ



MV-1620HSA

■ デジタルとアナログが混在した映像信号に対応

ビデオ信号 (HD/SD/ アナログ対応) に対応しています。例えば術場映像 (手術室の監視カメラ映像 / アナログコンポジット)、術野映像 (電子顕微鏡 / HD-SDI) などを混在表示可能です。

■ 最大で 20 個のビデオウィンドウを自由にレイアウト可能

各ウィンドウのタイトルや分割表示パターンなどの各種設定を予め登録しておくことで、ボタン一つで切り替えることができます。

■ 最大 2 画面に別々のレイアウトで表示

異なるレイアウトを最大 2 つの画面に出力可能です。例えば手術室内で医師が見る映像と学生・研修医やコメディカルが見る映像を異なるレイアウトで別々のモニタに表示することもできます。

■ モニター毎に最大 4 個の時計表示が可能

デジタル / アナログの時計をモニター毎に最大 4 つまで表示可能です。時計表示として使用しない場合は、カウントアップ / カウントダウンタイマーや残時間タイマーとして使用することが可能なため、手術経過時間や麻酔時間の表示等に活用できます。

■ ストリーム出力、4K 入力に対応

出力映像を LAN 経由でネットワーク上に転送でき、院内の別の場所でもリアルタイムで映像の確認が可能です。また 4K 入力にも対応しており、4K カメラ映像のダウンコンバートモニタリングも可能です。

導入事例のご紹介

日本大学病院 内視鏡室様では 2014 年 10 月、内視鏡映像モニタリングシステムとしてマルチビューワー MV-1620HSA を導入いただきました。導入のきっかけや使用状況など、内視鏡室長の西山竜先生にお話を伺いました。

今回マルチビューワーを導入されたきっかけを教えてください。

これまで複数の内視鏡検査室映像をまとめて確認できるモニタリングシステム自体がなく、直接各室に行って確認をしていました。一ヶ所でまとめて映像を確認できるシステムが欲しいと思っていたこともあり、今回病院の新築をきっかけに導入しました。

どのように使用されていますか？

内視鏡室のカンファレンス室に設置した大型ディスプレイに、常時 6 分割 (大画面 1、小画面 5) のレイアウトを表示しています。具体的には、大画面に内視鏡室 1 の内視鏡映像、小画面に



日本大学病院
消化器内科 内視鏡室長
西山 竜 先生

内視鏡室 2~5 の内視鏡映像と透視室映像を表示させています。

内視鏡室には 5 つの検査室があり、それぞれの検査室で患者さんの検査をする医師のほかに、数名の医師が常にカンファレンス室で待機しており、何かあれば駆けつける体制をとっています。

以前は内視鏡映像を別室で見られるシステム自体がなかったため、検査をしている医師が検査室から声を出して、別室で待機している医師を呼んでいました。しかし MV-1620HSA を使用するようになってから、1 つの大型ディスプレイで

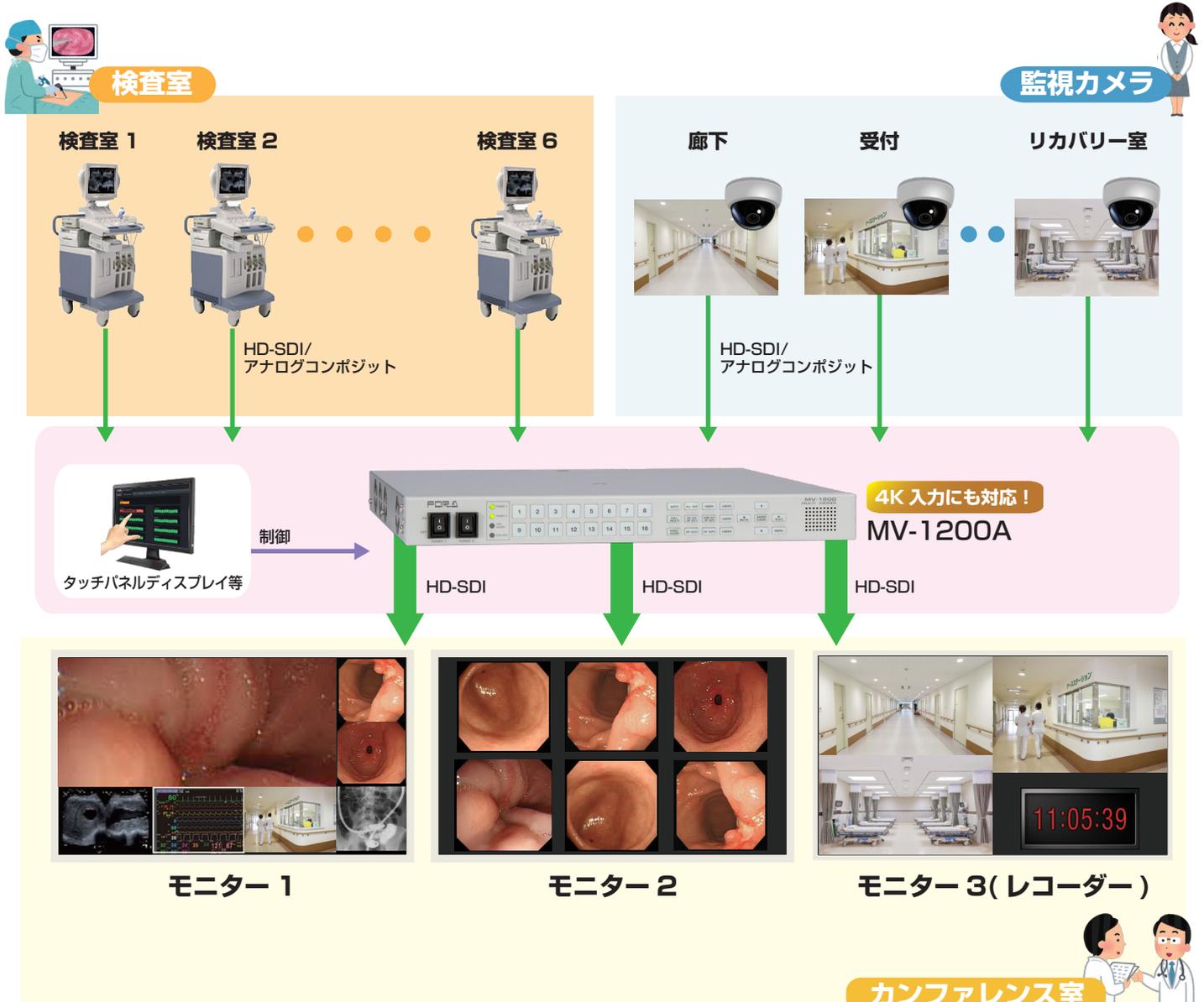


全 5 室の内視鏡映像を同時に見ることができるようになり、カンファレンス室で複数の医師が常に患部映像を見ているので、すぐに検査室に行けるようになりました。かなり便利になったと感じています。

また内視鏡映像のモニタリング以外に、カンファレンスでも活用しています。1 画面表示にして大きな映像を確認したり、横にプロジェクタースクリーンを置いて電子カルテを表示し、患部の映像と並べて確認したりなど、大変便利に活用できています。

(インタビュー：2015 年 9 月)

朋栄のマルチビューワーで 複数の検査室の映像を一括モニタリングできます。



入力数の多いシステムに最適。最大 68 入力 114 ウィンドウ表示可能モデルもラインアップ

MV-4000 シリーズ 術野カメラ映像信号表示装置

- 混在した異なる形式のファイル信号に対応、4K 入出力にも対応
ビデオ信号 (HD/SD/ アナログ /HDMI 対応): 術場映像、術野映像 (内視鏡、電子顕微鏡など)
- 最大 68 入力まで拡張可能
標準で 8 入力に対応。オプション基板の搭載により、68 入力まで対応
- 標準で 8 出力に対応
出力はモデルにより、HD-SDI 8 出力、または HD-SDI 4 出力 /HDMI 4 出力から選択可能。4K 時は 2 出力に対応
- ストリーム出力が可能
LAN 経由で出力映像をネットワーク上に転送し、院内の別の場所でもリアルタイムに進捗確認可能